

<テーマ> 「本時の学習課題を明確にして，問題解決に向かわせる取組」

(石巻市立須江小学校)

自力解決に向かわせたとき，何もできないでいる児童の中には，今何を考えていかなければならないのか把握できていない児童もいる。そこで，学習課題を明確にすることによって，下位層の児童も積極的に学習に取り組めるようにしたいと考えた。

【2年「ひき算のひっ算」の実践例】

①前時の復習を行い，一の位で引けないときは十の位から借りてきたことを全体で確認した。

[前時の問題]

$$\begin{array}{r} 146 \\ - 89 \\ \hline \end{array}$$

6から9は引けないので，十の位から借りてきて・・・

一つ一つの計算の手順を代表の児童に言わせて確認した。

②本時の問題を示し，前時の問題との違いを確認しながら，課題意識を高めていった。

[本時の問題]

$$\begin{array}{r} 102 \\ - 65 \\ \hline \end{array}$$

- T 問題をよく見て。
 今日の問題を見て「あれ？」と思った人はいるかな。
 まだ言わないで。心の中だけで思っている。
- C 分かった。あそこが違う。
- C 今日は0が・・・
- T 続きを言える人いる？
- C 昨日は146で6だったけど，今日は102で0になっている。
- C 今日は十の位に0が入っている。
- C 0だからあれができない。
- T これだと何ができないの？
- C 0だから，一の位にあげられなくなっている。
- T 昨日は4だったからあげられたけど，今日は0だからあげられないんだね。
- T じゃあ，今日の勉強のめあてはどうする？
- C 十の位が0だったら，どうするか？(本時の学習課題)

この投げ掛けによって，児童の問題に対する興味・関心を高めた。

複数の児童に説明させながら，児童の言葉で課題を焦点化していった。

このようなやり取りを通して課題意識を高めた。

前時の問題と丁寧に比較しながら本時の問題を見つめていくことによって，本時の課題をしっかりとつかまえることができた。この後，考える方法としてタイル，図，筆算などがあることを確認して自力解決を行わせた。積極的に自力解決に取り組む姿が見られた。